

令和7年度 八王子市立城山小学校 学校経営報告書

令和8年3月

八王子市立城山小学校

校長 小澤 孝弘

I. 今年度の取組と自己評価

A…達成 B…概ね達成 C…未達成 ◎…成果大 成果中…○ 課題…▼

(I) 教育活動の取組と自己評価

① 学力向上……………B

◎八王子っ子ミニマムの正答率が6割に満たない児童は前期国語20%算数35%であったが、後期は国語13%、算数24%となった。個別指導の成果が出てきている。また、正答率8割以上の児童は国語で44%算数35%とそれぞれ10ポイント以上増加した。

○基礎学力定着を図るための補習学習や校内研究での授業改善により、後期児童アンケートの授業満足度は89%であり、昨年度後期より2ポイント下がったものの高評価を維持している。

○保護者アンケートの「分かりやすい授業が行われ、学力の定着がある」という設問の肯定的評価が昨年度後期95%から今年度後期90%と5ポイント下がったものの高評価を維持している。

▼保護者アンケートの「落ち着いて学習できる雰囲気」を問う設問では、昨年度後期91%から今年度後期84%と7ポイント下がったものの高評価といえる。しかし、児童アンケートでは肯定的評価が59%で昨年度の72%から13ポイント下がった。本校の重点として取り組んでいるが、学級・学年によってコンディションを整えていくことに困難さが見られる。学習・生活ルールや授業のあり方を見直し取り組みを継続する。

② 健全な心身の育成……………A

◎毎週月曜日に「いじめ対策委員会」を実施し、全職員の共通理解を図りながら組織的対応を図ることができた。概ね早期解決が実現できており、保護者アンケートの肯定評価は93%であることから、本校の取組が支持されていると考える。

◎安全な学校への取組では校舎・遊具点検のこまめな実施、遊具危険箇所を事前に交換、子ども・保護者への注意喚起を実施し、大きな怪我を回避することができた。保護者の肯定評価は97%である。

◎特別支援教育の充実について、校内特別支援委員会によるケース会議の実施、スクールカウンセラーや外部関係機関(特に児童相談所やこども家庭センター)との連携により教育相談体制の強化が図ることができた。

○保護者アンケートでは、「子どもの将来や進路、職業への指導(キャリア教育)の実施」という設問の肯定的評価が昨年度後期79%から今年度後期81%と2ポイント上昇した。引き続き、キャリア・パスポートを中心とした本校の取組を周知し地域や家庭と連携しながら、キャリア教育を推進する。

○保護者アンケートの「子どもの生活指導に適切に取り組んでいるか」という設問の肯定的評価が今年度後期94%と高評価を維持している。

○保護者アンケートの「自他の大切さを認め、行動できる教育を進めているか」という設問の肯定的評価が今年度後期97%と高評価を維持している。

○今年度の重点であった「くつをそろえて入れている」について、児童の肯定評価は91%であり、目標を達成した。

③ 特色ある学校づくりの実践……………B

- ◎環境教育・食育・福祉教育・租税教育・健康教育は予定通り実施できた。食育に関する栄養指導を1・2・3年生の全学級で行い、残菜を減らすことについて成果が見られた。
- ◎保護者アンケートの「学習環境整備や清掃活動」という設問の肯定的評価が後期97%と、古い校舎ではあるが高評価を維持している。また、創立50周年記念式典に合わせ、PTAの協力も得ながら、正門付近の修繕をした。
- 色別班活動(異学年交流活動)に力をいれ、通常の活動はもちろん、大縄跳び大会や全校遠足など、高学年の意識を高めながら、学年相互の結びつきを深めることができた。また、下学年の上学年に対する感謝や憧れの気持ちを醸成することにもつなげることができた。
- 昨年度の「AL+GIGA推進校」としての実績を踏まえ、年4回の研究授業を実施した。一人一台の学習用端末の活用、対話的な学びを中心としたアクティブラーニングの推進、授業デザインワークシートの開発等、国語の読みを中心とした授業改善につなげることができた。
- 城山中学校と連携し、教員同士の授業観察や情報交換、部活動体験、地域行事の行動参加などを実施した。また、今年は青少年対策委員会と連携し、中学2年生と小学2年生合同で清掃活動も実施した。

④ 信頼される学校づくり……………B

- ◎保護者に伝えるべきことはその日のうちに行うことを徹底し、信頼関係の構築に努めた。
- 地域の苦情や要望にも素早く対応した。
- サービスの厳正については、大きな事故もなく達成できた。
- サービス事故防止研修については、年3回の研修会に加え、職員会議等を利用して、日常指導の徹底を図った。
- ▼私費会計の口座振替を前期後期制に変更した。しかし、その意義やシステムについての理解が教員側に不足していたため、引き落としのタイミングを誤り、保護者に多大な迷惑をかけてしまった。原因を詳細に調べ、再発防止に努める。

⑤ 開かれた学校づくり……………B

- ◎家庭との連携を充実させるため、ホームページ、メール、学校・学級便り等による積極的な情報発信を行った。保護者アンケートの「情報提供」に関する設問の肯定的評価は今年度後期98%と高評価を維持している。
- 学校公開については、運動会、授業公開、城山アートフェスティバル、道徳授業地区公開講座などを予定通りに実施し、好評をいただいた。

⑥ 組織的な学校経営を進める……………B

- 学校経営者会議(企画会)では、管理職・主幹教諭・主任教諭で情報共有を図りながら、臨機応変に対応策を講じることができた。また、互いの経営感覚を磨く研修の機会ともなった。
- 学校運営協議会には、主幹教諭も参加し、学校と保護者、地域のパイプ役を担いながら、学校運営に反映できた。
- 小さいことでも安心して相談でき、職員が孤立しない職場を実現できた。職員のまとまりについては、自負している。
- ▼次世代の担う教員をさらに育成し、基幹となる人材を発掘しなければならない。

(2) 重点目標「やさしい子」の取組に関する自己評価……………総合B

- ① 子どもの生命や安全の保障……………B
- ② 児童の多様性を認め、自他を大切にする教育……………B
- ③ 生活指導の徹底……………B
- ④ 教育相談と校内支援体制の充実……………A
- ⑤ 特別な教科「道徳」の充実……………B

2. 令和8年度に向けて

(1) 学力の向上

- ① 落ち着いた学習環境を実現させる。
- ② 朝の短時間学習、月曜日・金曜日の放課後学習を有効に活用し、基礎・基本の定着を図る。
- ③ 八王子っ子ミニマムの結果を分析して、習得目標値未達児童の学力向上を図る。
- ④ 令和8年度「AL+GIGA推進校」として、国語の「読み解く力」の向上を目指し、いっそうの授業改善を図る。

(2) 生活指導の充実

- ① 歓迎ムード、支持的風土のある学年・学級の実現を目指し、全校的に取り組む。
- ② 落ち着いた学校生活を実現させる。
- ③ いじめの早期発見早期解決、不登校児童への適切な支援を目指して、教員、保護者と一体となって、改善に取り組む。
- ④ 金曜日6校時のいじめ対策の時間を継続し、定例のいじめ対策委員会の充実を図る。
- ④ SNS城山小ルールの周知と外部団体と連携した安全指導の充実を図る。
- ⑤ 「城山小スタンダード」（「よくわかる城山小」）を配布し、学校と家庭の共通理解のもと一貫した指導を行う。

(3) 小中一貫教育の充実（キャリア教育の充実）

- ① 小中の学校経営の関連性と連続性を重視する。
- ② 本地区の特色である「城山城跡」と「北条氏照公」を起点としたキャリア教育を推進し、地域学習や地域につながる活動の充実を図る。
- ③ 城山中学校での部活動見学（体験）や体験授業を実施する。
- ③ 小中教員による相互授業を実施し、合同分掌等部会を開催する。（年3回）
- ④ 清掃活動や防災活動等、地域行事への共同参加を呼び掛ける。
- ⑥ 取組の様子を積極的に発信し、保護者・地域の小中一貫教育への理解を図る。